

道路政策の質の向上に資する 技術研究開発

技術研究課題の募集

産・学・官の連携を強化し、

「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、
道路行政ニーズを実現するための技術研究開発を、研究者の方々から広く募集しています。

1. 募集する研究テーマ

分類	FS研究 (フィジビリティ研究)	短期研究	本格研究
概要	<p>○道路行政の技術開発ニーズに対応する研究開発 以下の7つの施策テーマ毎に設定した道路行政の技術開発ニーズに対応する研究 ※道路行政の技術開発ニーズ：国土交通省道路局HPで公開済み (https://www.mlit.go.jp/road/tech/donyu/index.html) ※7つの施策テーマ： (1)防災・減災が主流となる社会の実現 (2)持続可能なインフラメンテナンス (3)持続可能で暮らしがやすい地域社会の実現 (4)経済の好循環を支える基盤整備 (5)インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション(DX) (6)インフラ分野の脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上 (7)道路施策の実効性を確保</p> <p>○提案型研究開発 (道路行政の技術開発ニーズに記載はないが、)新たな発想に基づく研究開発の提案で、 道路行政の進展に資するもの</p>	<p>短期研究</p>	<p>通年募集中 (第4期：～2月末締切)</p>
	<p>本格研究のFS調査として 実施するもの</p>	<p>短期小規模なもの</p>	<p>R7年度募集終了</p>
研究規模		<p>最大300万円/年</p>	<p>500万円程度から最大5,000万円/ 年</p>
研究期間	<p>最大1年間程度</p>	<p>1年間程度/回 (同じテーマで連続2回まで 申請可能)</p>	<p>最大3年間程度 (中間年度毎に実施する中間 評価の結果を踏まえて、次年度 の継続可否を決定)</p>
募集 ・採択		<p>通年募集し年間4回採択を決定 年間10件程度の採択を想定</p>	<p>年1回募集し毎年3月頃に採択を 決定。年間5件程度の採択を想定</p>

2. 応募方法

○募集要領等

国土交通省道路局HPで公開

(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/shinki/koubo.html>)

※国土交通省道路局HPから提案様式をご記入の上、
電子メールにてご提出ください。

○応募期間 FS研究・短期研究：通年募集（通年募集し年間4回採択を決定）
本格研究：年1回（年1回募集し毎年3月頃に採択を決定）

○提出・問い合わせ先

〒100-8918 東京都千代田区霞が関二丁目一番三号
国土交通省 道路局 国道・技術課
新道路技術会議事務局

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」募集係
hqt-sindourogijutsu@gxb.mlit.go.jp

R7年度スケジュール

応募	審査
5月～6月	7月
7月～8月	9月
9月～11月	12月
12月～2月	3月

3. 審査方法・基準

○審査方法

提案書類の審査は、国土交通省道路局に設置する、学識

経験者等で構成された「新道路技術会議」において行います。

○審査基準

審査は「研究の必要性」、「研究成果の有効性」及び
「研究計画の妥当性」の観点から行います。

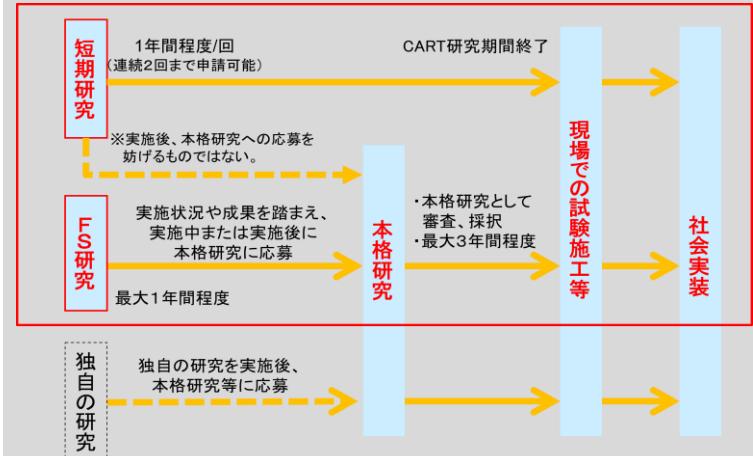
4. 研究開発から社会実装に向けた流れ(イメージ)

[FS研究]

FS研究は本格研究の実行可能性調査として実施するものであり、研究期間は最大1年間程度です（**年度またぎでの実施も可能**）。FS研究では、当該研究の実施状況や成果を踏まえ、**実施中または実施後に本格研究への応募が可能**です。本格研究としての採択後は最大3年間程度の研究実施後、現場での試験施工等を経て最終的に社会実装へと繋がります。

[短期研究]

短期研究は短期小規模の研究であり、研究期間は1年間程度/回です（**年度またぎでの実施も可能**）。**同じテーマで連続2回まで申請可能**ですが、**本格研究への応募は実施後のみ**になります。短期研究の社会実装に向けた流れとしては、研究実施後に本格研究に進むケースと現場での試験施工等に進むケースがあります。



FS研究・短期研究の採択実績(R4～R6年度)

分野	分類	採択年度	研究代表者 (採択時の所属・役職)	研究課題名	件数
ソフト	短期	R5	東京工業大学 教授 真田 純子	空石積み道路擁壁の公共事業における発注方法および価値づけについての技術研究開発	6件
	FS		名古屋大学 教授 山本 俊行	交通DXによるフェーズレス交通マネジメントについての技術研究開発	
	FS	R4	横浜国立大学 教授 田中 伸治	平面交差部の安全性と円滑性を向上させる反転交差点の技術研究開発に関する実行可能性調査	
	FS		オンキヨー(株) 近藤 裕介	交通流動(車・歩行者)の計測を簡便に実現する、振動センサを用いた技術研究開発	
	短期		愛媛大学 講師 白柳 洋俊	乱横断に起因して発生する交通事故を対象とする交通事故対策に関する技術研究開発	
	FS		北海道大学 准教授 杉浦 聰志	計画道路の防災機能類似性評価手法についての研究開発	
ハード	FS	R6	関西大学 教授 谷 弘詞	バッテリーレスなタイヤマウントセンサによる路面状態モニタリング方法の開発	6件
	FS	R5	東北大 准教授 大橋 雄二	打音・衝撃波同時計測インフラ検査技術の研究開発	
	FS		富山県立大学 講師 野田 賢太郎	弾性波伝搬情報に基づくRC構造物の異常・損傷検出についての技術研究開発	
	FS		神戸大学 准教授 橋本 国太郎	レーザーによる高精度形状計測と膜厚計測を併用した完全非接触ボルト軸力推定法	
	FS	R4	北見工業大学 准教授 白川 龍生	UAV-SfMおよびLiDARを活用した雪庇計測に関する技術研究開発	
	FS		東亜道路工業(株) 阿部 長門	路面設置型非接触給電コイルについての技術研究開発	

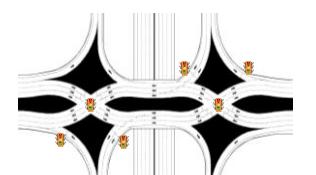
研究展開の事例紹介(横浜国立大学・田中 伸治 教授)

★FS研究終了後、本格研究へと展開(R6年度～実施中)

FS研究名	研究期間	研究概要
平面交差部の安全性と円滑性を向上させる反転交差点の技術研究開発に関する実行可能性調査	R4～R5	安全性と円滑性を向上させる新しい平面交差形式である反転交差点の技術研究開発に向け、文献調査や机上検討による実行可能性調査を行う。



本格研究名	研究期間	研究概要
平面交差部の安全性と円滑性を向上させる反転交差点についての技術研究開発	R6～R8 (予定)	立体交差によらず平面交差のまま安全性・円滑性を向上させる反転交差点の性能評価に加え、社会経済的な評価や利用者・市民の受容性も加味した導入指針を作成する。



▲反転インターチェンジ